



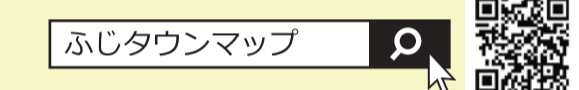
富士川逃げどきマップについて

近年、想定を超える大雨による浸水被害が発生していることから、富士川の管理者である国土交通省が**想定される最大規模の降雨**(富士川下流域で48時間雨量565ミリ)により、富士川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域図を作成しました。

このマップは、上記の洪水浸水想定区域等を示すとともに、市民の皆さんが自分の命を守るため、**いつ、どこに、どのように避難するかを事前に考えていただくためのもの**です。

マップを使い、自宅の大雨時の危険性を確認し、いざというときの避難方法について決めておきましょう。

■富士川・潤井川・沼川・小潤井川の最大規模降雨による洪水浸水想定区域の確認方法
ふじタウンマップ検索後、「防災マップ」をクリックして下さい。



令和2年4月作成

お問い合わせ先

富士市 建設部 河川課 TEL. 0545-55-2833 (富士市消防防災庁舎5階)
総務部 防災危機管理課 TEL. 0545-55-2715 (富士市消防防災庁舎3階)

近年の浸水被害状況

近年は、地球温暖化などの影響により、これまでに経験していないような、台風や降雨が発生し、全国で甚大な洪水や浸水被害が発生しています。

●平成30年7月豪雨(西日本豪雨)

Table with 2 columns: 気象概要 (Weather Summary) and 浸水被害 (Flood Damage). Details include rainfall amounts and damage statistics for the July 2018 heavy rain.



小田川の破壊により、岡山県倉敷市真備地区が浸水した状況 (出典: 国土交通省)

●令和元年東日本台風(台風19号)

Table with 2 columns: 気象概要 (Weather Summary) and 浸水被害 (Flood Damage). Details include rainfall amounts and damage statistics for Typhoon 19 in October 2019.

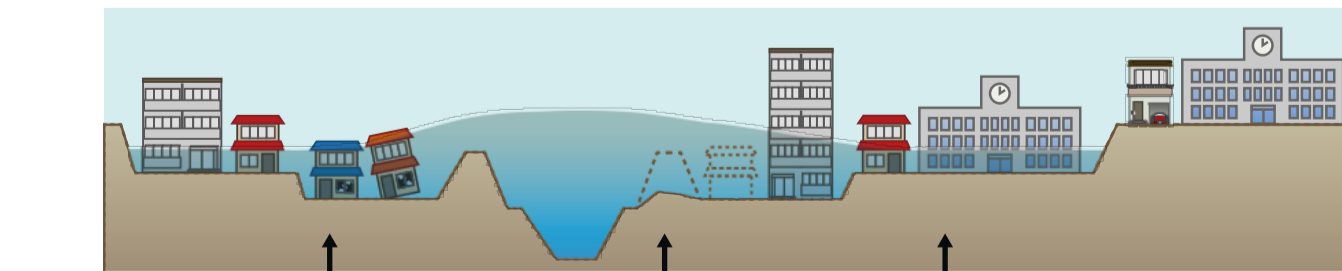


千曲川の破壊により、長野市赤沼地区が浸水した状況 (出典: 国土交通省)

ハード対策に絶対はありません

雨の降り方が変わりつつある今、ハード対策(堤防の整備など)のみで十分とは言えません。

富士川においてもハード対策を上回る雨が降った場合、上記の写真や下図のような被害が発生する恐れがあります。市民の皆さんが自ら危険性を認識し、適切な避難行動をとること(ソフト対策)が大切です。



●マイタイムラインを作って大雨に備えましょう!

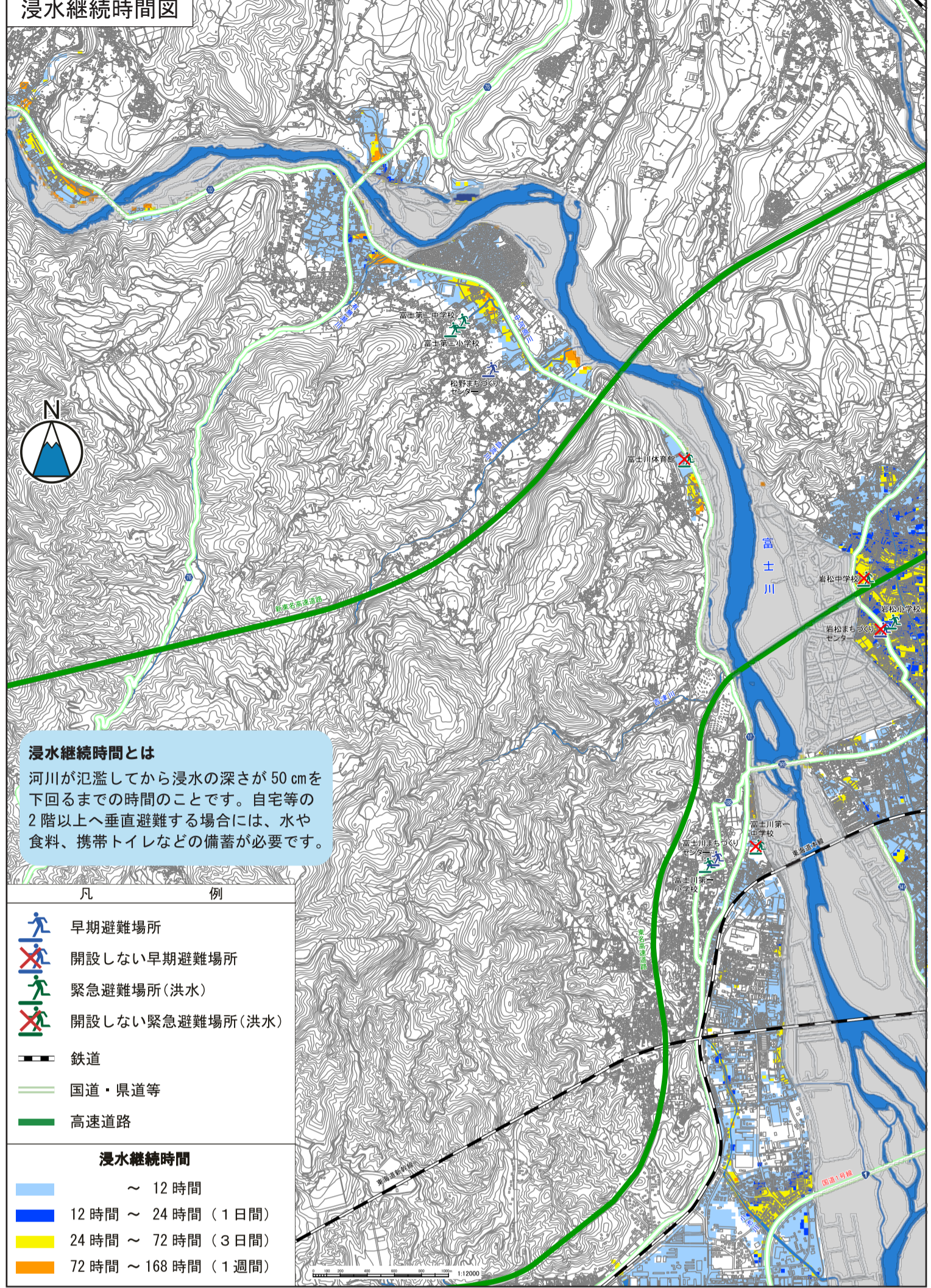
マイタイムラインとは?

河川の氾濫は、突然発生する地震とは違い、雨の降り方や河川の水位の上昇などの情報を確認することで、氾濫の危険性をあらかじめ察知することができます。

また、過去の豪雨災害において、逃げ遅れて救助された住民は、「避難しようと思ったら、既に家の周りが浸水していて避難できない状況だった」と証言しています。

マイタイムラインとは、いざというときにタイミングを逃すことなく安全に避難できるよう、一人ひとりが避難に備えた行動をあらかじめ決めておくためのものです。

あなた自身と大切な家族を守るため、雨の降り方や河川の水位、避難情報を基に、「いつ、どこに、どのような手段で避難するか」を、次のステップ1からステップ3までのマイタイムラインの作成を通して決めておきましょう!



測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2.04.09

避難を判断するための情報と収集先

避難するかどうか判断するためには、各機関から発信される情報を自ら収集することが大切です。川の水位や雨の降り方、避難についての情報は、様々な手段で収集できますので、その方法を確認しておきましょう。

Information cards for: 川の防災情報 (River Disaster Information), 富士市防災ラジオ (Fuji City Disaster Radio), SAIPOS-RADAR, 気象庁 (Weather Agency), 富士市メールサービス (Fuji City Email Service), and テレビによる情報収集 (Information Collection via TV).

避難場所 一覧

Table listing evacuation sites (Early and Emergency) with columns for facility name, address, and flood hazard level for different river sections.

富士川洪水についての警戒レベル3以上の避難情報が発令された後に、浸水が想定される9地区内の学校施設が「緊急避難場所」として開設されます。

Table listing emergency evacuation sites (schools) with columns for facility name, address, and flood hazard level.

※岩松中学校、富士川第一中学校、富士川体育館は、河川洪水による危険性が高い施設(家屋倒壊危険ゾーン内)のため、富士川の洪水警戒時には開設されません。

知っておきたい! 情報の意味

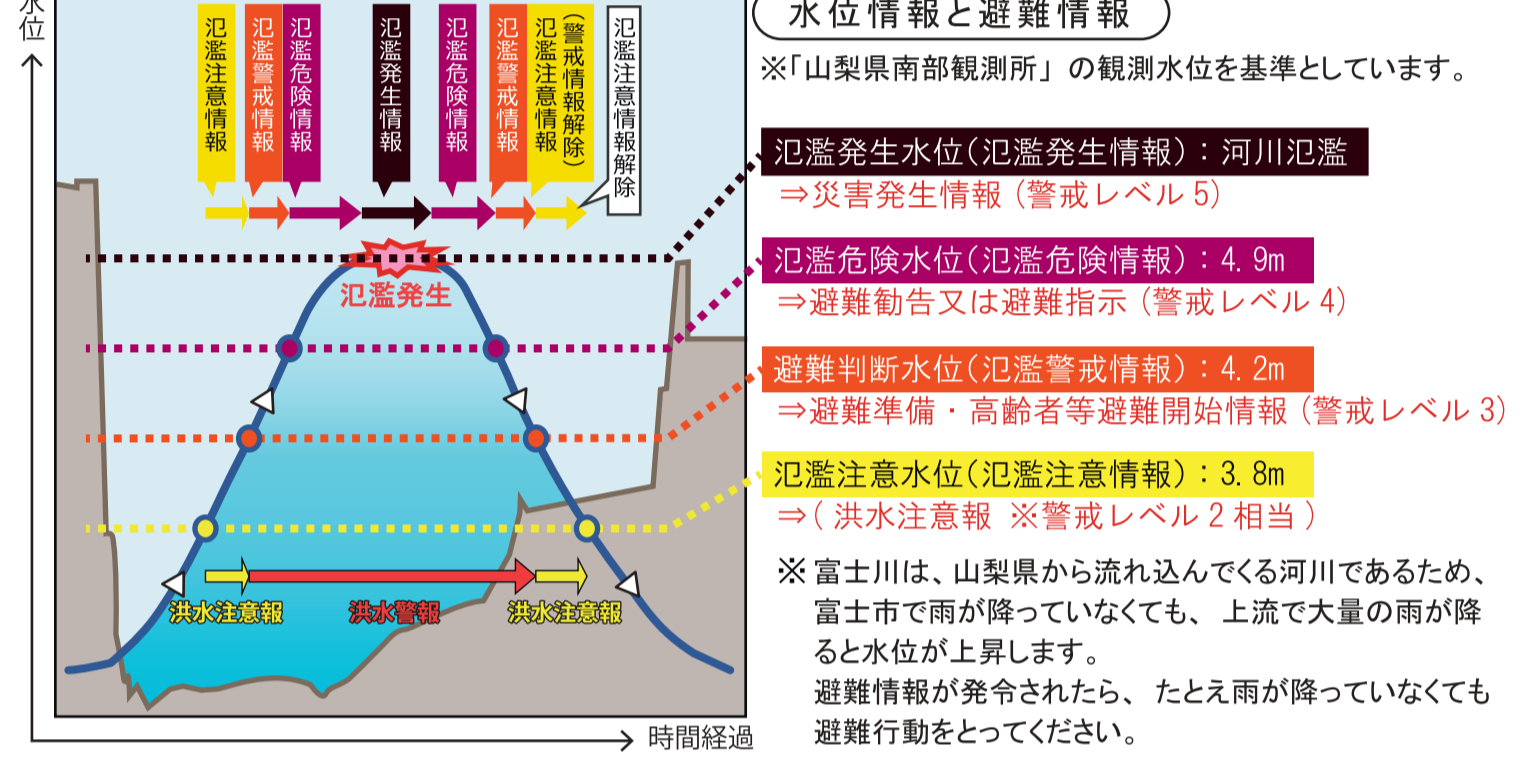
大雨時に富士市や気象庁から発信される避難や気象に関する情報の意味をあらかじめ理解しておきましょう。

Alert Level Information Table: Explains the meaning of Alert Levels 1 through 5 and the corresponding actions citizens should take.

●富士川の水位情報と避難情報

富士川は流域面積が大きく、洪水が発生した場合に大きな被害が生じるおそれがあるため、国土交通省と気象庁が共同で、洪水予報を発表することになっています。この情報を「指定河川洪水予報」といいます。

富士市では、この指定河川洪水予報を受けて、市民の皆さんに避難情報を発令します。



※富士川は、山梨県から流れ込んでくる河川であるため、富士市で雨が降っていかなくても、上流で大量の雨が降ると水位が上昇します。避難情報が発令されたら、たとえ雨が降っていかなくても避難行動をとってください。

ステップ3 わが家のマイタイムラインを完成させよう!!

- 1. 大雨時にわたしがとる行動 [1]~[3]について、行動を開始するきっかけにする情報を「気象・避難情報」[ア]~[オ]の中から1つ選んで [] 欄へ記入しましょう。
2. ステップ2で決めた内容を [3] の「避難する場所」, 「避難する方法」に記入しましょう。
3. 完成したマイタイムラインを写真に撮り、撮った画像を家族全員で共有しておきましょう。

「富士川」わが家のマイタイムライン. A detailed flowchart for creating a family evacuation plan, including steps for information collection, preparation, and evacuation, with corresponding alert level icons.

洪水時の避難行動計画(マイタイムライン)

ステップ1 自宅の大雨時の危険性と避難の方向を確認しましょう!

- 1. 地図(裏面)で自宅を探し、印をつける
まずは、自宅が地図上のどの位置にあるのかを確認しましょう。
自宅を探すコツ 自宅近くの目印となる施設(学校・まちづくりセンター)を見つけ、そこから自宅を探してみましょう。
2. 自宅の大雨時の危険性を書き込み、避難の方向を決める
地図(裏面)から、自宅の大雨時の危険性を確認し、以下の表の該当箇所を実線で囲み、囲んだ各項目間を実線で結びましょう。

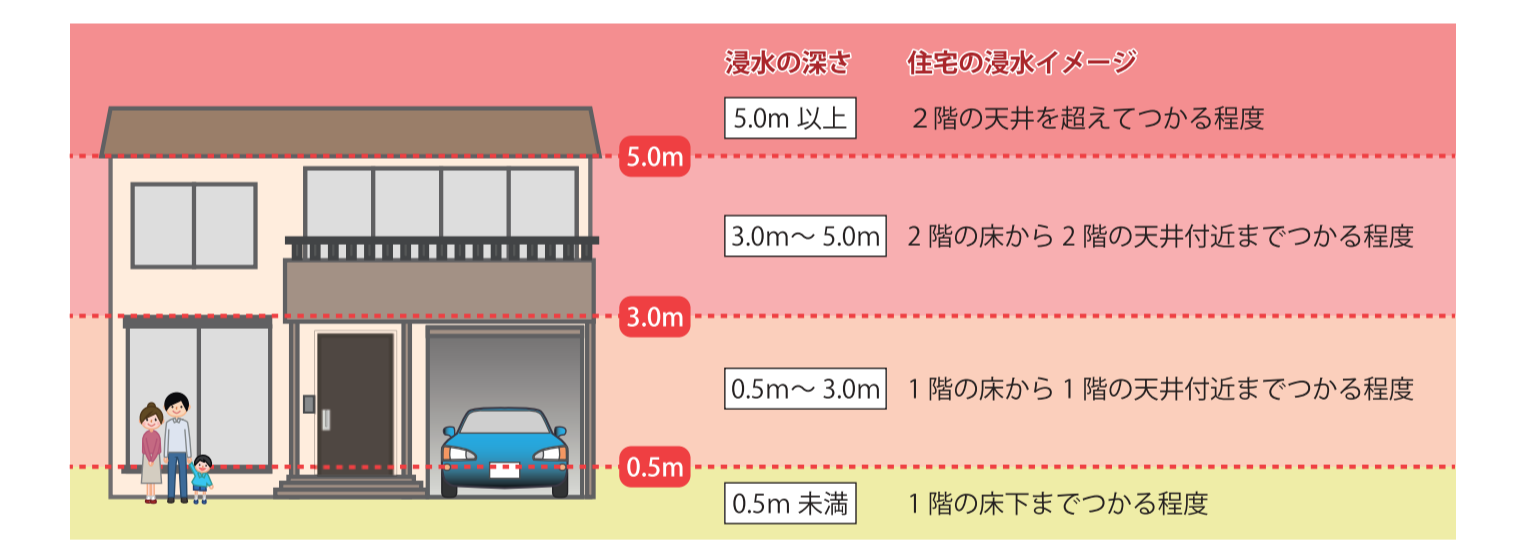
Table for Step 1: Flood Hazard Assessment. Columns include: 家屋倒壊危険ゾーン (House Collapse Hazard Zone), 土砂災害(特別)警戒区域 (Landslide Special Warning Area), 想定浸水深 (Estimated Flood Depth), and 自宅の階数 (Home Floor Level).

ステップ2 避難する場所と方法を決めましょう!

ステップ1で避難の方向を「立ち退き避難」または「垂直避難」を選択した人は、以下の表の該当箇所を囲み、避難する場所と方法を決めておきましょう。

Table for Step 2: Evacuation Location and Method. Columns include: 避難の方向 (Evacuation Direction), 避難する場所(どこへ) (Evacuation Location), and 避難する方法(どのように) (Evacuation Method).

※市が開設する避難場所は2ページの「避難場所一覧」を参照してください。



大雨時にあなたがとるべき避難の方向は?

Evacuation Direction Guide: Provides instructions for '立ち退き避難' (Evacuation to a safe location) and '垂直避難' (Vertical Evacuation) based on home structure and flood depth.

●避難の方向や避難する場所を決めるために考慮すべきこと

浸水継続時間を、1ページの図で確認しましょう。浸水してから水が引くまでに2日間(48時間)以上かかる場所もあります。浸水してしまつと、電気、ガス、水道、トイレなどが使えない状況で、長時間生活することになりますので、2階以上に水・食料・携帯トイレなどを必要数備蓄しておくことが必要です。取り残された場合のヘリコプターやゴムボートによる救出は、最終手段であり、危険を伴うことを忘れてはいけません。

図 河川が氾濫した場合の避難の方向イメージ